



禁煙ジャーナル

■発行人 一般社団法人 タバコ問題情報センター [代表理事・渡辺文学]

No. 343

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-1-4 九段セントラルビル 203

TEL: 03-3222-6781 FAX: 03-3222-6780

《郵便振替》00120-0-159803 【印刷】遠藤印刷 1部500円

長崎市役所新庁舎の喫煙室設置問題 世論の批判浴び白紙撤回に！

～効果的だった長崎新聞の議員アンケート～

長崎市役所の新庁舎は 2019 年に着工し、来年1月の開庁を目指して、建設が進められています。当初、市のホームページでは、議会フロア(5階)の図面に「喫煙室」の記載はありませんでした。ところが、議長の諮問機関である「議会機能整備検討会」が本年6月17日に非公開で開かれ、市議の1人が「喫煙室の設置」を提案、工期などを理由に2か所の設置が決定してしまいました。

この問題が明るみに出たのは、7月4日の毎日新聞の記事で、小紙読者の賀来氏はじめ、禁煙運動関係者からも、「喫煙室設置反対」の動きが拡大、その結果、長崎新聞の「議員アンケート」なども大きな反響を呼んで、田上富久市長は喫煙室の設置を白紙撤回させました。この間の動きについて賀来氏から、時系列を追っての報告がありましたので、紹介させていただきます。(編集長・渡辺文学)

撤回にいたるまでの経緯

長崎市春回会井上病院 賀来 俊



長崎市役所新庁舎は、来年1月の開庁をめざしています。建設中の新庁舎議会フロアに喫煙室が設置されることが明らかになり、全国から大きな反応を呼び起こし、撤回まで持ち込めたいきさつを振り返ってみたいと思います。

発端は7月4日の毎日

新聞記事(以下)でした。

6月17日に各会派の市議で構成する議長の諮問機関「新市庁舎建設に係る議会機能整備検討会」が非公開で開かれ、市議が喫煙室の設置を提案。

「喫煙者の権利がある」との意見が出る一方、「換気が十分できるのか」「会派に持ち帰って検討したい」などの声も上がったが、工期などを理由に設置が決まったという。

市が公表している議会フロアの図面には喫煙室の記載はない。市が2017年以降、市議に示した数種類の図面にも今回の提案まで記載はなかった。新庁舎が2019年7月に着工し、完成まで5カ月とってから、喫煙室の設置が浮上した。

■長崎新聞に投書を実施

私は直ちに新聞投書で反対の意見を表明することを決め、7月7日(木曜日)には原稿が完成し投函の準備まで整いました。(投書・別掲参照)

地元の長崎新聞投書欄には、過去10数回の掲載経験があり、字数などの要領もわかっており、また朝日新聞よりもより早く採用の可否が分かるため、投稿先は長崎新聞としました。

投稿原稿を勤務先病院近くの郵便局に持って行ったところ「今日は木曜日なので集荷は明日となり、配達は来週になります」と言われました。

病院から長崎新聞社まで歩いて15分程度の目と鼻の先にもかかわらず、ここで3日もの遅れは投書のインパクトが弱くなると考え、翌日配達になる速達でお願いしました。

【7月8日：毎日新聞の記事】

田上富久長崎市長は、7月7日の記者会見で、検討会からまだ要望を受けていないとした上で「基本的には、技術的な課題や費用などの検討結果を踏まえて判断していく。議会フロアの機能になるので市議会の意向を尊重したい」と語った。

7月12日(火曜日)に私の病院に新聞社より電話があり、内容の確認、語句の若干の修正についてやりとりを行いました。

—* 1頁からの続き—

【7月13日：毎日新聞の記事】

7月12日に日本禁煙学会が喫煙室を設置しないよう求める要望書を深堀義昭議長と田上富久市長らに送った。

■二つの投書が同時掲載に

7月14日、長崎新聞「声」欄に投書が掲載されました。ほぼ同一の意見の人がいて、二つの投書が同時掲載されました。これはインパクトがあったと思います。これまでこの問題に関して長崎新聞紙上には何の反応もありませんでした。

しかし、投書掲載をFacebookに挙げたところ、市議のところに長崎新聞社から賛否の調査が来たという情報の書き込みがありました。

また、別の情報筋からは、長崎新聞のアンケートを受けて、もう一回話し合うべきとの意見と、その話し合いの方法を巡ってまたゴタゴタしているみたいだとの情報もありました。

【7月20日（水曜日）：毎日新聞の記事】

長崎市医師会は20日、田上市長と深堀議長宛に撤回を求める要望書を提出した。

【7月21日（木曜日）：長崎新聞の記事】

「議会にだけ喫煙室 反対の声」。長崎市医師会が市長と議長宛てに撤回を求める要望書を提出した。議会フロアは市民に開かれた公共の場。市民の理解は到底得られないと訴えた。また、日本禁煙学会が7/12にすでに再考を求める要望書を提出している。

【7月24日：長崎新聞の記事】

「喫煙室設置 撤回提案へ」検討会座長 25日に提出する意向を明らかに。

【7月26日（火曜日）：長崎新聞の記事（特集）】

「喫煙室設置を撤回」「お手盛り」に市民の目厳しく。長崎市議会は25日、新市庁舎議会フロアの喫煙室設置方針を撤回した。外部から猛烈な批判を浴び、6月に内部の検討会で決定して1カ月で方針転換に追い込まれた。～中略～ 長崎新聞は今月中旬、喫煙室設置への”本音”を探るため議長を除く全議員39人に、設置の賛否と理由を尋ねるアンケートを実施。22日までに全員から回答を得た。その結果、賛成が4人、反対25人、その他10人だった。～中略～ 市議会は25日、検討会を開催し検討会の座長の毎熊政直議員が撤回を提案、全会一致で了承された。

議員の4分の1が喫煙者で、非喫煙議員は当初から反対したが、喫煙容認派がいる主要会派に押し切られた。相変わらず喫煙者の権利や税金を持ち出す議員もいたが「お手盛り喫煙室」への社会の視線が厳しく、早々に火消しに走ったとみられる。来年は市議選があるからとぼやく議員もいた。

【7月26日：毎日新聞の記事】

「長崎市議会喫煙室を撤回 新庁舎 座長が一転、設置見送り提案 「市民の理解得られず」」。前回6月17日の非公開会合で設置を提案した座長の毎熊政直市議が一転して「市民から多くの批判をいただき、理解が得られていない」として設置の見送りを提案。出席した6会派の市議がいずれも賛成した。議長の諮問機関で市議による「新市庁舎建設に係る議会機能整備検討会」がこの日、報道機関に公開して会合を開いた。

設置決定以降、議会事務局に約40件、市大型事業推進室に約50件の意見が電話や電子メールなどで寄せられ、ほとんどが設置に批判的な内容だったという。日本禁煙学会、市医師会、県保険医協会も相次いで撤回を要望していた。

■朝日新聞もようやくフォロー

朝日新聞は7月26日になって初めて毎日新聞などに歩調を合わせて以下の記事を掲載しました。

新庁舎の議会フロアだけに「喫煙室」？ 批判相次ぎ撤回 長崎市議会。

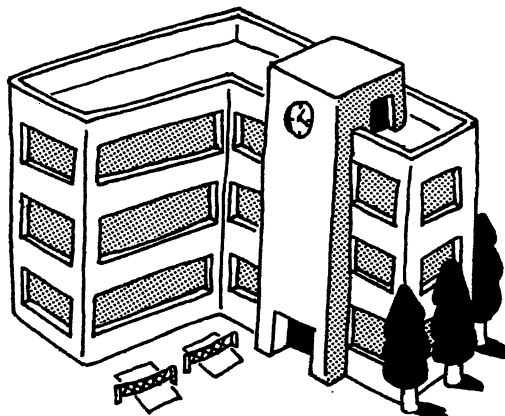
■議員アンケートが決め手に

以上の経過でした。7月4日の毎日新聞の記事から始まって、比較的早い段階から日本禁煙学会、長崎市医師会、長崎県保険医協会など、医療関係の団体から市長と議長あてに申し入れがなされたこと。長崎市内の医療関係者間で特に連携した動きはなかったようですが、市民からの電子メールや電話による批判的意見が多く届いたこと。長崎新聞は一見出遅れたかに見えたものの、早期に直接議員へのアンケート調査を行い、喫煙議員と非喫煙議員の本音に迫る動きをしたことも早急な撤回に結び付いたものと思います。

ただ、市長の態度については歯切れが悪かったように思います。最終的には敷地内には喫煙室は設置しないという言質を得ましたが、今後も厳しく監視する必要があります。

皆様、ありがとうございました。

【かく・たかし=禁煙ジャーナル会員】



非公開で設置決定した 長崎市議会喫煙室

～日本禁煙学会が撤回申し入れ～

建設中の長崎市役所新庁舎5階の市議会フロアに喫煙室を設置することを市議の検討会が非公開会合で決めた問題で、日本禁煙学会は7月12日、喫煙室を設置しないよう求める要望書を深堀義昭議長と田上富久市長らに送った。

「喫煙専用室からは煙が漏れざるを得ない」と指摘し「職員や市民の健康を受動喫煙の危害から守ってほしい」と訴えている。

議会事務局などによると、6月17日に市議で構成する議長の諮問機関「新市庁舎建設に係る議会機能整備検討会」が非公開で開かれ、市議会フロアに喫煙室2カ所を設置することを決めた。

受動喫煙防止を目的とした改正健康増進法は行政機関の庁舎での喫煙を禁じているが、市は「議会フロアは他のフロアと機能が異なる」として、喫煙専用室が設置できるとしている。

これに対し、全国の医療関係者ら約4500人でつくる日本禁煙学会は「非公開の場で決定され、とても驚いている」と指摘。「公費で運営され、公共性の極めて高い議会は、自主的に屋内全面禁煙とするべきだ」と強調した。

同学会の作田学理事長（杏林大第一内科前主任教授）は取材に、議会フロアへの喫煙室設置について「構造上、ダクトを共通化する可能性があり、その場合は別の部屋にも副流煙が流れて受動喫煙につながる恐れがある」と指摘した。

学会の調査では、改正健康増進法が全面施行された2020年4月1日現在で、全国815の市・区議会の98%に当たる796議会が屋内全面禁煙か、屋外も含む敷地内禁煙としている。政令市議会は20のうち19、長崎市を含む中核市の議会は60のうち54が、屋内全面禁煙か敷地内禁煙としている。

【Yahooニュース 2022.7.13】

諏訪市の受動喫煙防止条例

年間約400万人の観光客が訪れる長野県諏訪市で「受動喫煙のない健康のまちづくり条例」を公表しました。今回の条例案について地元の関係者は、諏訪湖畔のような公共性の高い場所においては受動喫煙防止の観点から厳しい規制は致し方ない、との立場のようです。

しか、この問題では『日刊ゲンダイ』が盛んに嘯みついでおり「喫煙所」の設置などで悪あがきの動きを見せていますが、金子ゆかり市長の英断に期待の声が集まっています。【渡辺文学】 3

勤務医
建設中の長崎市役所新庁舎5階の市議会フロアに喫煙室が設置されるという。健康増進法では、行政機関の庁舎内は完全禁煙と定められているものの、議会フロアは機能が異なるからとの屁理屈で正当化しようとしている。議会フロアと言っても一般人も出入りする公共の場。そもそも屁理屈の後ろめたさがあるからこそ、今の時期にならば非公開の検討会で決定したのだらう。さらに言えば、各議員の部屋は、職員を含め一般の人も出入りする公共の場であるため、たとえ議員が喫煙者であっても禁煙すべきだ。なぜなら

税金使うな 公共の場は禁煙

ば、そこは議席を失えば明け渡すべき貸与された部屋であるからだ。禁煙のホテルで喫煙したら、その清掃費を請求される時代である。たばこの臭いが染み付いた部屋の壁や調度品、空調設備の臭いをなくするにはかなりの費用がかかる。それを税金で賄うべきでないことは自明である。別に設計変更は必要ない。そこを喫煙室にしなればいいだけの話だ。職員や来庁者が利用する喫煙室が設けられるならば職員もそこで喫煙すれば皆と同じであり、なんら権利侵害もない。むしろ好感度が上がるのではないか。

(長崎市)

無職
先日、バスで長崎市民会館前を通ると、建設中の長崎市役所新庁舎(地上19階、地下1階)が見えた。「人口減少で40万人を切っている街にこんな大きな建物が必要なのだろうか?」と思った。帰宅後、ニュースで「長崎市議会新庁舎フロアに喫煙室 非公開で決定を目にした。詳細を確認すると「長崎市役所新庁舎の5階は全が議会フロアになり、機能が他のフロアと異なる」との考えで、行政機関の庁舎ではないとみなし、喫煙室を設置することを市議の検討会が非公開の会合で決めた」とあった。

菅原千一郎(73)

市民無視 議会フロア喫煙室

受動喫煙の防止を目的とした改正健康増進法では行政機関の庁舎内での喫煙は禁止されている。議会フロアは建物内にあり、議会傍聴に市民も訪れる場所。それなのに市民が分らないような非公開の会合で喫煙室設置を決めるのは議員特権の、自分たちに都合の良い解釈だと私は思う。市議のホームページなどには「住民の意見を尊重し」「市民の意見を聞きながら活動」などの文言が並ぶが、言葉とは裏腹に市民無視の行動は理解できない。市民目線で政治に関心を持ち続けるのと同時に、真実を伝え、権力を監視するメディアの役割に期待する。

(長崎市)

「金属片」を入れた「新型タバコが「凶器」に ～子どもの「誤飲」で惨事にも～

サイエンス・ライター 石田 雅彦



喫煙者の家庭には、タバコがごく普通にある。タバコは、乳幼児や子どもの興味を引きやすいため、誤飲事故が多い。

最近、加熱式タバコの喫煙者が増えているが、アイコスの新製品はスティックに金属片が入れられ、子どもが誤飲すれば口腔内を傷

つけるなど、重篤な事故が増える危険性がある。

■多い子どものタバコ誤飲事故

好奇心旺盛な子どもは、手近にあるものに興味を示し、口に入れてみようとすることもある。

タバコのパッケージは、キラキラしていたり不思議な色をしていたりするし、香料入りの場合、子どもが好きな匂いがする場合もあるだろう。

そのため、子どもの誤飲事故の中でもタバコの誤飲は最も多い。厚生労働省の調査によれば、タバコがずっと子どもの誤飲事故のトップだ。



●新型タバコのパッケージとスティックに入れられた金属片。(写真撮影は全て筆者)

同調査では、タバコの誤飲事故の大半は、1歳前後の乳幼児に集中し、公園で遊んでいた子どもがポイ捨てされたタバコの吸い殻を口に入れていた事例の報告もあったという。

喫煙率の減少とともに子どものタバコの誤飲事故は減ってきているが、やはりタバコがトップを維持し続け、ここ数年は横ばい状態になっている。

もともと子どもが異物を誤飲した場合、自分が何を飲み込んだのかを訴えられないこともあり、外見からも症状が出ないことも少なくない。そうなると、措置が遅れたり、麻酔をかけなければならないなど、身体的な負担が大きくなる治療法を取らざるを得なくなる。

■増えている新型タバコの誤飲事故

子どもの誤飲事故では、シェアの変化とともに新型タバコ（加熱式タバコ）のスティックやカプセルなどによるものが増えている。

2021年に消費者庁が発表したアンケート調査結果によれば、乳幼児が誤飲しそうな割合は、加熱式タバコのほうが多かったという。

なぜ、加熱式タバコなどの新型タバコのほうが、子どもが口に入れる危険性が高いのだろうか。

それは既存の紙巻きタバコより、新型タバコのスティックやカプセルのほうが小さいからだ。

また、タバコ葉に含まれるニコチンには、強い嘔吐作用がある。

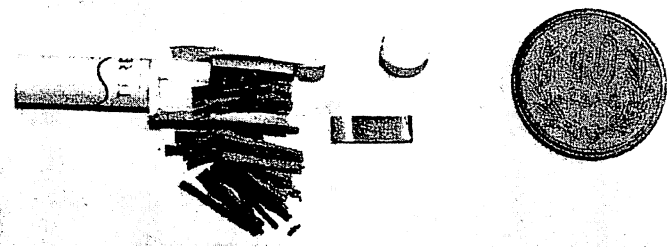
タバコ葉を刻んで巻いた紙巻きタバコは、子どもが口に入れるとタバコ葉の苦味で吐き出しやすいの比べ、新型タバコのスティックはタバコ葉を板状に固めたり、プラスチックのカプセルに入れたりして、タバコ葉の苦味が感じにくい仕組みになっていることも大きい。さらに、新型タバコのラインナップをみると、メンソール、シトラス、ストロベリー、アップルといった香料入りの多い。

子どもは甘い匂いに興味を持ちやすいので、新型タバコの誤飲事故も増えていくというわけだ。

■尖った金属片が入ったスティック

こうした新型タバコのスティックに、より危険性の高い製品が出ている。

それがフィリップ・モリス・ジャパンが製造輸入販売しているアイコス・イルマのテリアというスティックだ。テリアのスティックの1本1本には、長さ約12ミリメートル、幅約3.5ミリメートルの金属片が入っている。触ってみると弾力性があるが、バリがあって角が尖り、うっかりすると指先を切ってしまうようになる。



●イルマのスティックと入れてある金属片（中）。円筒の物体は蓋のようなもので子どもが口に入れてもタバコ葉の苦味を感じられない恐れがある。

—* 4頁からの続き—

新型タバコのアイコス・イルマのスティックとスティックに入れてある金属片の中央の円筒の物体は、スティックの先端に差し込まれた蓋のようなものだ。これが内部を塞いでいることで子どもが口に入れても苦味を感じられない恐れがある。

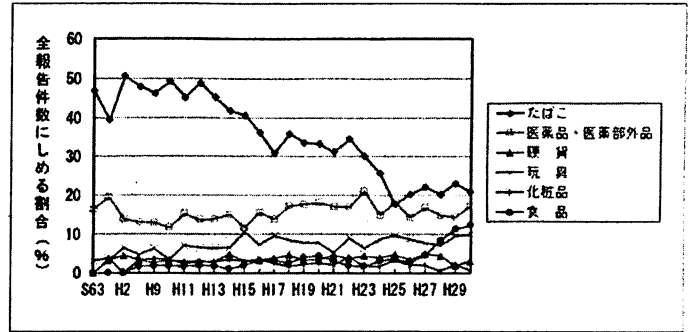
こんなものを子どもが誤飲すれば、どうなるだろうか。

公益財団法人日本中毒情報センターという機関があるが、この機関もタバコの誤飲事故について啓発や情報提供などを行っている。

同センターは、2021年9月1日にアイコス・イルマのスティック、テリアの誤飲事故について、医療関係者から情報収集を行っているように、関係機関もこの製品について危惧しているようだ。

また、タバコ会社もタバコの誤飲事故には神経を尖らせている。例えば、フィリップ・モリス・ジャパンは、日本中毒情報センターの医療関係者への情報提供に関する費用を負担している。

ちなみに、同センターの評議委員には、JT（日本たばこ産業）と関係の深い公益財団法人喫煙科学研究財団の理事も加わっている。タバコ産業は、誤飲事故の情報をいち早く入手したいと考えているのかもしれない。



【小児の家庭用品等による誤飲事故報告件数比率の年度別推移】

●喫煙率の減少とともにタバコの誤飲事故は減ってきているが、やはりタバコがトップを維持し続け、ここ数年は横ばい状態になっている。Via:厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課化学物質「安全対策室」 「2018年度 家庭用品等に係る健康被害病院モニター報告」 2019年

■すぐに吐き出させて治療へ

タバコ葉にはニコチンが含まれているが、ニコチンは薬機法（旧薬事法）によって劇毒物に指定され、許可を得て適切な管理のもとでなければ使用・販売することはできない。

また、ニコチンには強い毒性がある。体重1kg当たりニコチン1~13mgが成人の致死量とされ、90kgの成人では1.8%のニコチン溶液5mLで致死量に達し、乳幼児のニコチン経口致死量は10~20mg（タバコ半分~1本分）と考えられる。

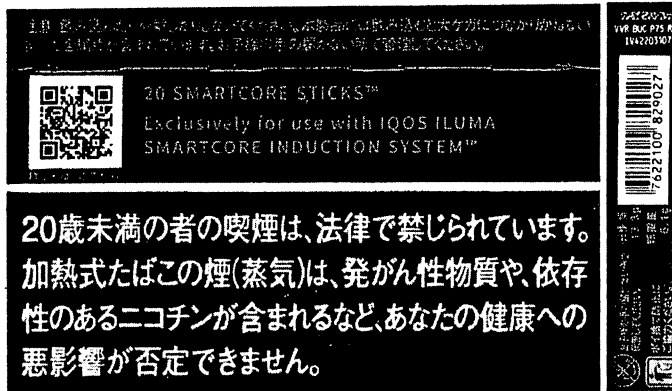
子どもがタバコ製品を口に入れば発見しにくく、嘔吐もせずに消化器官へ送り込まれ、ニコチンが吸収される危険性は高い。

厚生労働省は、喫煙者は紙巻きタバコや加熱式タバコのスティックなどを放置せず、目の届かない場所に保管し、子どもの行動に注意するよう呼びかけている。

もし、子どもがタバコを誤飲した、もしくは痕跡や症状からそれが疑われる場合、すぐに吐き出させるのが最も重要な措置だが、同時に医療機関へ連絡して治療を受け、症状によっては救急搬送も依頼すべきだ。

ニコチンの吸収を早めてしまうため、吐き出させるためとしても、水やミルクなどを飲ませることは避けたい。

【いしだ・まさひこ=横浜市立大学医学部大学院 環境制御医学教室】



●テリアの警告表示=「本製品には飲み込むと大ケガにつながりかねない尖った金属片が含まれています」とあるが、小さな文字で色も読みにくい。

■金属片を入れたのなぜか

なぜ、フィリップ・モリスはスティックにこのような金属片を入れたのだろうか。

それは、アイコスの加熱方式にある。イルマ以外のアイコスは、金属ブレードをスティックに差し込み、金属ブレードを加熱しているが、この部品が破損しやすく、差込口の中の清掃もしにくい構造になっている。

保証修理や交換、クレーム対応のコスト、清掃が不十分なことでの有害物質の発生といったリスクなどが無視できなくなり、おそらくスティックの金属片を加熱する方式を開発したのだろう。

* 「薬機法」=医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律。



映画に喫煙シーンは必要か？

～岡田結実のタバコ発言に異議あり～

日本赤十字広島看護大学名誉教授
川根 博司



先日、インターネット配信を見ていると、スポニチアネックス(2022年8月7日付)の“岡田結実 喫煙シーン初挑戦、タバコの味は「めっちゃおいしかった」という記事タイトルが目に留まった。

主演映画『ウラギリ』の舞台あいさつで、撮影の時に監督の意向により初めてタバコを吸ったというのだ。しかも、それを自慢げに話して、おいしかったとまで感想を述べるとは何か裏があるのではと疑いを持った。

そこで、日本禁煙学会のメーリングリストに下記を投稿した。

「今時、タバコを吸ったことがない人に喫煙を勧める監督がいるとは…スポーツニッポン新聞社ニュースによると(映画『ウラギリ』の舞台あいさつ)、女優の岡田結実(22)が映画『ウラギリ』に出演して、『監督の意向で初タバコを』と喫煙シーンに初挑戦したそうです。『めっちゃおいしかったです』と言っていますが、どのくらいのお金が動いたのでしょうかね」

すると、「非喫煙者に演出でタバコを吸わせる…犯罪ですね!」というコメントをはじめ多くの方々から反響があった。また、「妬みや裏切り、パワハラなどさまざまな人間模様の中で“信じる”を問いかけるサスペンス&ヒューマンストーリー」という触れ込みの映画なのに「こんなパワハラ(スモハラ)しといて、この監督は、何を考えているのでしょうか?」との意見もあった。

■タバコ業界からお金が?

そこで、映画の予告編を見ても、いきなりビル屋上での喫煙シーンが出てきて、それから無意味な(あくまで個人の感想です!)タバコを吸う場面のオンパレードといえるほどだった。本編は見えないが、既視感があるなと思いつらると、アカデミー賞国際長編映画賞を受賞した『ドライブ・マイ・カー』も喫煙シーンがやたら多いことで、禁煙推進活動に取り組んでいる人たちの間で最近話題になったばかりだ。

実際にタバコ業界からプロダクトプレイスメントとして資金が流れたのか、監督や映画制作会社の付度なのかはわからないが、喫煙シーンがなくとも良い映画はできるはずである。

お金の動き以外に、記者会見などにおける俳優の言動は演技の可能性が否定できないため、彼女が本当に初タバコだったかどうか怪しんでいた。ところが、思わぬところから主演女優のウラギリが発覚したのが、以下の「岡田は、2020年の『受動喫煙対策推進キャラクター』を務めていたこともある」という暴露記事である。

岡田結実「タバコおいしかった」発言が炎上!『受動喫煙対策推進キャラクター』痛恨の失言

<https://weekly-jitsuwa.jp/archives/74193>

■タバコは吸わないと明言

調べてみると、厚生労働省は2018年から当時17歳のタレント岡田結実を受動喫煙対策推進キャラクターに任命していた。その就任発表の席上、彼女は「タバコの煙が苦手な飲食店では必ず禁煙席。タバコは一生吸わないと決めている」と話したというのだから呆れてしまう。今回の映画は「信じることの難しさや友情をテーマに描いた人間ドラマ」だそうだが、その信じられない舞台あいさつにより、政府の面目丸つぶれではなからうか。

■「映画の宣伝に」という疑問

日本禁煙学会の作田学理事長は、今回の事案を学会として取り上げない理由として①この俳優が以前から吸っていた可能性はないかという問題、②これは禁煙学会を焚きつけて映画の宣伝に持っていこうとしているのではないか、という疑念を挙げている。

確かに過去にも似たような事案で学会にゆさぶりをかけてきた個人や団体があったので、表立って動くのは得策でないかもしれない。

代わりにというわけではないが「子どもに無煙環境を推進協議会」代表理事の野上浩志氏(日本禁煙学会理事)は、ブログに「演技であっても、出演者にタバコを吸わせるべきでない」との意見を書かれているのを参照されたい。

④演技であっても、出演者に初タバコをさせるべきではない。吸わせるべきでない。 - タバコのない笑顔あふれる大阪、日本、そして世界へ

[blog.goo.ne.jp](https://blog.goo.ne.jp/tobaccofree/e/7b9f67e1f2c86408f232feb8cafdd4c7)

<https://blog.goo.ne.jp/tobaccofree/e/7b9f67e1f2c86408f232feb8cafdd4c7>

【かわね・ひろし = 日本禁煙学会理事】



《メディア・ウォッチング》

■7/14『長崎新聞』（投書一本紙読者・賀来俊氏）

「税金使うな 公共の場は禁煙」。①建設中の長崎市役所新庁舎5階に喫煙室が設置されるという②健康増進法では、行政機関内は完全禁煙と定められているものの、議会フロアは機能が異なるからとの屁理屈で正当化しようとしている③議会フロアといっても一般人も出入りするといった内容

■7/28『しんぶん赤旗』（投書）「たばこ製造は環境壊すもの」。

①公園散歩で気になるたばこの吸い殻②「河北新報」に掲載された山本蒔子医師の「たばここと環境保護 禁煙からSDGs実践」を拝読③環境破壊のすごさに驚くとともに、人々の禁煙の必要性を痛感④子どもの遊び場である公園の喫煙は絶対にしないでほしい、といった内容

■8/1『福島民報』「早期肺がんも見逃すな」「低線量CT検診」「喫煙者への有効確認」。

喫煙者に多い肺がんの早期発見・治療の必要性という観点から、記者が柏市の国立がん研究センター東病院で、低線量CT検診を受けた際に取材。①感度低い従来検査—①喫煙者は発症リスクが4倍になる②喫煙指数600以上の高危険群は、喀痰細胞診を加える③胸部エックス線では肺の約30%は心臓などと重なり、残る部分でも早期がんの画像は淡く、がんの検出感度は約60%。喀痰細胞診は約40%とさらに低い④東病院放射線診断科の佐々木智章院長は「見逃しのリスクは常にある」と話す／②見えずる弊害—①2011年、喫煙者約5万人対象の米国の大規模調査で「CTは胸部エックス線より肺がん死亡率を20%下げる」と示された。②「早期発見」の魅力は大きい／③重要な精度管理—①村松禎久放射線技術部長は「健常者に行う検診はできるだけ低線量で」と強調②低線量CTは既に約15%の自治体が住民健診に組み込むが、まだ自費での任意検診が主体③日本医療開発研究機構が一般の人での有効性を調べる大規模調査を実施中といった内容

■8/2『東京』[世界の街 カイロ][海外レポート]（蜘蛛美鶴記者）「水たばこ（シーシャ）にはまり中」。

①カフェでぼーっとしながら吸うといい気分。②中東ではたわいもない話をしながら、シーシャを楽しむのが日常③シーシャは、香りを付けたたばこの葉をサイコロ形の炭で熱し、その煙を水に通して吸う仕組み。客の好みの「味」に合わせてくれるのが腕のいい「シーシャ職人」④「すごくいい煙が出るよ」などとお礼を言うと、…長い話が始まる。それを聞きながらシーシャを吸うのがまたいい、といった内容。「水たばこは害がある」という各国の研究結果が出そろっている。「娯楽」として楽しむ情景を描くこの記事は、まったくもっていただけない■8/10『東京』「たばこ年齢毎年引き上げを」「英政府の独立委が勧告」。①英保健省の独立委員会が、たば

こを購入できる年齢（18歳）を段階的に引き上げる必要性について勧告②ニュージーランド政府が14歳以下の購入を非合法化する方針で、それに続くべきと促した恰好③独立委は「たばこ産業に対して『喫煙は時代遅れだ』との最後通告を突きつけることにつながる」と意義を強調。日本の喫煙対策は国際的に“劣等生”とみなされており、見習うべき点が多そうだ、といった内容（笑）■8/12

『朝日』「ゴミを減らしたい高校生の陳情採択」

「昭島のグループ「未来守」、市議会へ5件提出」

「拾った量の多さに驚き」。昭島市の高校生が市議会に陳情書を提出するまでの経緯を紹介。「市内全域で歩きたばこや吸い殻のポイ捨てを禁止する。一方で喫煙所は増やす」とあるが①監視員がポイ捨てする人に話しかければ意識が変わるのでは②吸いたい人にも配慮がある、などと議論を重ねたという。「配慮」の結果が「喫煙所」の増設

だとしたら「キミたち、勉強不足ですよ」と言いたい（笑）■8/15『朝日』「吸い殻「投票」ポイ捨て激減 渋谷の喫煙所 箱に回答促す選択肢」。

①たばこの吸い殻を1票に見立て「投票」する喫煙所が渋谷にある②設置・運営は喫煙所を運営する「コソド」③同社代表の山下悟郎氏が2019年に設立④社会貢献で解決する課題として、たばこのポイ捨てや受動喫煙の問題を選択⑤今回思いついたのが「投票型喫煙所」。箱ごとに質問は違い、変更の度に吸い殻の本数を集計⑧「投票箱」は渋谷を選んだ⑨設置前の土日、一帯に計1000本以上あった吸い殻は、設置後の土日では約80本に激減⑩喫煙所が増えればポイ捨ては減るか尋ねる質問も何度も設けており、そのたびに「YES」に吸い殻があふれるほど入っている。「コソド」はTHE TOBACCOの企画運営を行っており①JTとの「協業」を行ったこともある②「喫煙者と非喫煙者の共存」といったフレーズもみられるものの、JTの別動隊という“証拠”までは発見できませんでした（笑）■8/19『産経』「渋谷センター街に投票型喫煙所」「アンケートでポイ捨て防止促す」

「参加する感覚へ 発想の転換奏功」。

8/15『朝日』の記事とほぼ同内容だった■8/21『東京』「09年以降誕生の子『生涯喫煙禁止』」「NZたばこ

ない国へ」「改正法成立の公算」。

ニュージーランドのアーダン首相はコロナ対策で世界的に注目された人物。この政権が7月に「09年以降に生まれた人

には15万NZドル以下の罰金を科す」という法案を提出した、という内容。

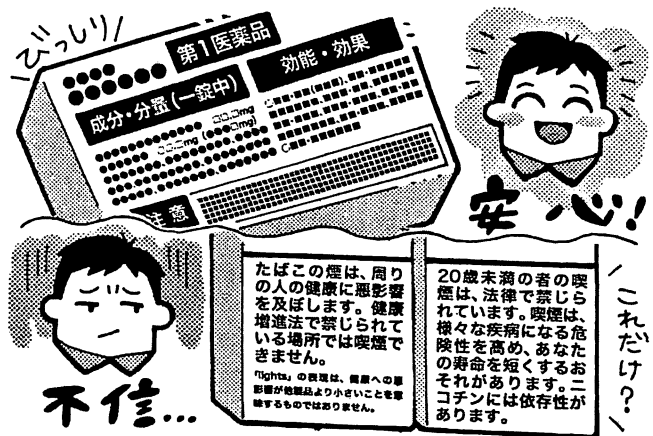
オタゴ大のリチャード・エドワーズ教授は、①開市場のシェアが多少増えたとしても法改正で喫煙者全体が激減するという効果が得られれば問題ない②たばこ業界は開たばこを問題視するが、正規品のたばこも人間を確実に殺すという意味では変わりない、とコメント。【氷飽健一郎】

7

展望台

安全・安心が第一。地球の将来のために多くの努力が絶え間なく各所で行われているが、その際不可欠なのは安全と安心だ。それなくしては、単なる無理解者の我が儘である。COVID19のパンデミックも怖い、ワクチンの安全性を心配して接種を拒否する人もいて必ずしも予定通りの抗体獲得率が得られていない。感染予防のためとはいえ、健全な人が毒物関連の異物を体内に注入することに抵抗を覚える心情は無理のないことと言える◆異物を体内にとり入れることの代表は飲食物であろう。毒キノコを知らずに食べてしまった事故も時には起きるが、一般に市中に流通する食材については管理体制が十分に機能している。その他、体内に入れる異物としては薬品があるが、体内に入って人体に作用・影響を及ぼすものについては、医薬品に限らず厚生労働省の管轄下に置かれていて、国民に大きな安心を与えてくれている◆真に不思議なのがタバコ使用である。食品や薬品と同様に、タバコ使用によりタバコ成分が体内に入り各種の作用を及ぼすことは明白だが、タバコ使用に関しては「吸い過ぎに注意」とか「病気になる危険がある」などの文言が箱に書いてあるだけで、食品や薬品に必ずあるような詳しい情報・説明書、注意書がない。吸い過ぎ度や危険度については自己判断で問題ないのであるか？◆識者の話では、日本においては「タバコは食品でもなく薬品でもなく、税金を挙げるためのものである」から財務省の管轄になっている。つまり、不健康問題の原因となるタバコについて、厚生労働省は管轄外であって意見は出せない制度になっている◆矛盾したこの制度は日本特有のもので、約130年前の日清戦争の戦費捻出のためにタバコ事業を国有化した歴史に端を発するのだが、その古い歴史を現代にまで引きずって国民を苦しめ

ていることを、今の政治家は何と意思しているのか？理解に苦しむ。それどころか、1985年には「たばこ産業の発展を図る」という「たばこ事業法」を制定したのであるから「怠慢な政治」どころか、利権に溺れて国民を苦しめる「悪徳政治」と呼ぶ人の気持ちもわかる◆問題はこのことが国民に知らされていないことだ。多くの国民は、タバコ使用について「有害無益でありながら強い依存性のために吸い続ける人がいる」ことは、健康政策上の問題であると思っている。実際、タバコの煙の有害性については厚生労働省が苦慮しているが、タバコそのものについては「財政確保及び経済の発展を目的」と定めた「たばこ事業法」にもとづき財務省の管轄である◆経緯はともかく、130年後の今日も「有害無益な麻薬様物質を国民に売りつけて利益を上げつつ、一方で国民に病害を及ぼす」実に不誠実な政治の進め方に納得がゆかない国民が増えるのは当然だ。戦時の体質を今の平和な世に引き摺って「財務省・タバコ会社・利権議員により、国民に危険な麻薬様物質を売りつける国の体質」が、一日も早く改善されることを私たちは強く望む。【中久木一乗】



【雑記帳】7月16日、横浜栄区のリスホールで伊佐山芳郎氏のピアノ発表会が。栄区は「スモークフリー・キャラバン」で活躍された関口正俊氏の地元で、ひと声かけさせて頂いたところ、当日舞台には素晴らしい花束が贈られていました。伊佐山氏のピアノは、お馴染みのショパン「ワルツ作品64の2」で、この日の出演者の中で、もっとも多くの拍手を受けていました◆8月1日から7日まで、郷里の南会津に。築200年の古民家で、屋根は茅葺の上にトタンを被せています。敷地は約800坪という広さで雑草がこれでもか、と伸びていました。そこで、最初の仕事は雑草刈りでした。草刈り機を肩にかけ、刈っていきます。朝夕の涼しい時間帯にしか出来ませんから、朝6時半から8時半まで、夕方は5時から6時半くらいまで、汗を流しました◆昼は、齊藤久武さんと高橋国治・栄子夫妻に漬けて頂いた梅を樽から出して、大きなザルに並べての天日干しです。沢山の梅を四つのザルに分け、蔵の前に並べました

◆4日は奥会津の日帰り温泉「きらら」に。奇岩に囲まれた露天風呂が素晴らしく、緑の山を眺め、せせらぎの音を聞きながら水風呂と露天風呂を往復しました◆5日夕は、先祖代々の墓の草刈りでした。広さは30坪もあります。隣のお墓の回りはきれいになっていましたが、渡辺家の場所は雑草が伸び放題で、刈った草を一輪車で横の捨て場まで運びましたが、5回ほど往復しヘトヘトになりました◆16日は旧友の小林哲也氏(帝国ホテルの元社長と同性同名です)から「ロス・インディオス コンサート」の招待券を頂き、氷鮑健一郎氏と土浦の殿岡哲雄氏を誘って浅草公会堂に。「結成60周年記念」ということで、ムード歌謡、ハワイアン、ラテンなど2時間半の舞台を楽しみました。89歳の高木ブーさんのウクレレと歌、とても良かったですね。(文)